

一般財団法人 英語教育協議会

平成25年度（2013年度）事業報告

1. 英語教員研修事業

(1) E L E C 英語教育研修会(The ELEC Seminars for English Teachers)

文部科学省後援のもとに、各1日制の研修会をE L E C 英語研修所にて下記のとおり実施した。

夏期：7月25日～8月14日	受講者数： 605名（前年682名）
冬期：12月25日～26日、28日	受講者数： 100名（前年101名）
春期：3月25日～30日	受講者数： 151名（前年212名）
	合計856名（前期995名）

なお、昭和32年以来の受講者累計は18,884名となった。

(2) 小学校外国語活動ワークショップ

文部科学省後援のもとに、各1日制の研修会をE L E C 英語研修所にて下記のとおり実施した。

夏期：8月17日（土）	受講者数： 14名（前年 21名）
冬期：12月27日（金）	受講者数： 19名（前年 9名）

(3) その他教育委員会主催 教員研修会支援事業

下記の教育委員会主催の教員研修会を委嘱され、実施した。

東京都八王子市	： 1日間	2時間	1クラス	受講者数30名
石川県	： 1日間	34時間	3クラス	受講者数24名
岐阜県	： 2日間	8時間	2クラス	受講者数60名

2. 英語教員支援事業

(1) 英語展望（E L E C Bulletin） 第121号 特集：「Can-Doリストは英語教育を変えるか」の販売部数は614部であった。

(2) English Teaching FORUM Vol.51 Nos. 1, 2, 3, 4 の販売部数は202部であった。

(3) E L E C 賞

2013年度のE L E C 賞は、厳正な審査の結果、A部門（実践記録）1名が受賞した。

- ・ A部門 受賞者：中野達也（東京都立白鷗高等学校教諭）

受賞論文：速読力向上を目指した指導 — 音韻処理を自動化するための方策

本E L E C 賞の提供を通じて最新の現場教育の立場と教授法の理論的研究等を収集し、それを「英語展望」へ掲載することにより一層の周知をはかった。

(4) E L E C 賞授与式・特別講演会:

テーマ: 「求む! 日本人のグローバル・リーダー」

講師: 公益財団法人フォーリン・プレスセンター理事長 赤坂清隆氏

参加者: 38名

(5) 英語教育シンポジウム

平成25年10月12日、E L E C 英語研修所ビル内において、「CAN-DOリスト設定の実践と課題」のタイトルでシンポジウムを開催した。

参加者は63名であった。

神代浩氏(文部科学省初等中等教育局国際教育課:課長)の基調講演の後に開かれたパネルディスカッションには、下山田芳子氏(茨城県教育委員会指導主事)、松尾美幸氏(岩手県立福岡高等学校教諭)、小金聡氏(宮城県教育委員会指導主事)、柳瀬和明氏(日本英語検定協会制作部アドバイザー)がパネラーとして参加し、根岸雅史氏(東京外国語大学教授)の司会のもと、熱心な討論が展開された。この模様は12月6日に発行された英語展望に掲載された。

3. 一般研修等事業

(1) E L E C 英語研修所(The ELEC Institute)

2013年度は以下のコースを開講した。

総合英会話コース:

午前部 週1日コース(水/土)

午後部 週1日コース(月/水/木/金/土)

夜間部 週1日コース(月/水/木/金)

ビジネス英語コース

夜間部 ビジネス英語初級コース(火)

スキル・トピック別コース

ムービー (金)

ディスカッションコース(上級)(金)

プライベートレッスン:

・従来の学期制プライベートレッスン

週1回 月、火、水、木、金の午前・午後(1レッスン45分)

・非学期制プライベートレッスン

受講回数・曜日・時間等を学期の枠組みにとらわれずに決められる
レッスン(1レッスン45分)

2013年度の研修所の延べ受講者数は以下の通りであった。*()内は2012年度

春学期	67名(78名)
夏学期	84(102名)
秋学期	66名(80名)
冬学期	76名(76名)
合計	293名(336名)

本年度の受講者数は前年度を13%下回った。
また、新規受講生は46名であった。

(2) 企業、大学向け英語研修

- 1) 財団としては、顧客企業の方向性を確認し、ニーズに合わせた研修内容の構築や定期的なクラス見学等を実施することにより、研修の質の維持・向上に努めたが、急速に数を増やしたオンラインスクールなどとの競合が激しくなり2013年度は苦戦を強いられた。

研修の依頼理由としては、これまで外国との接点が少なかった企業が、グローバル化の影響で英語が必要になったためというものが多かった。

研修内容に関しては、英語が母国語ではないアジアや南米などの国々とのコミュニケーションを必要とする企業が多く、流暢さよりも簡潔さ・正確さを求める傾向が続いている。

研修効果の測定については、大企業はTOEICの得点を指標として使うことが多いが、中小企業は仕事現場でどの程度、実際に英語が使えるようになったかを測る適切な方法を模索中の所が多い。

2013年度 企業研修売上： 37,239千円(前年度42,381千円)

- 2) 大学からの受託講座については、既存の取引先においては2014年度に向けて神奈川大学外国語学部、法学部の講座を新たに受託し、法政大学においてもグローバル人材育成プログラムの講座を市ヶ谷キャンパスに加え多摩、小金井キャンパスの講座を追加受託するなど好調であった。

大学教育市場を新規開拓するためには、国際人の養成につながるような企画、事前事後の英語力の測定と分析、それに基づいた講座提案など付加価値の高い商品企画力が求められている。

2013年度 大学研修売上： 88,369千円(前年度54,099千円)

- 3) 本年度の英文添削・翻訳サービスの利用件数は個人8名並びに法人6社であった。(昨年度は個人4名、法人6社)

主な受注内容は、個人からは論文や応募書類の翻訳・添削、法人からは中学/高校教材原稿、美術館/博物館の展示案内、企業の契約書、ウェブサイト原稿、企業紹介パンフレット等の翻訳・添削であった。

(3) 英語教育ポータルサイト事業

2012年7月、ELECは文部科学省と協力して「英語教育ポータルサイト」（サイト名「えいごネット」）をインターネット上で立ち上げた。この事業は文部科学省の英語教育に関する基本政策また関連情報の開示、各都道府県教育委員会の活動紹介、英語を駆使して活躍する日本人の紹介、やさしい英語ニュース等、全国の英語教員や英語教育関係者に役立つコンテンツの提供を主な狙いとしている。英語教育全般に関する情報発信基地として、今後のさらなる発展を目指す予定である。

4. 教材作成等事業

(1) 録音教材作成事業

平成25年度の売上は1億3,500万円（予算比3.37%増）で前年度の売上1億2,500万円から約1,000万円増という結果である。依然として出版社の出版点数の絞り込みや他社との競合により厳しい営業状況は続いている。

(2) 出版教材作成事業

今年度の書籍売上は以下のとおりであった。

日本語で話そう1	11冊	日本語で話そう2	15冊
日本語で話そう3	17冊	日本語で話そう4	46冊
絵で学ぶ英会話1	1冊	絵で学ぶ英会話2	1冊
マザーグース童謡集	4冊	英語会話教本1	5冊
英語辞書物語 下	1冊	合計:	101冊

5. その他の事業

CEFR(欧州共通言語参照枠)を活用してのELECアプローチの研究と実施

CEFR(欧州共通言語参照枠)と第2言語習得理論に基づくELECアプローチという英語指導メソッドを開発し講師全員に周知した。今後、ELEC研修所、ELECが研修を行う大学、企業、団体において逐次導入し、実証研究を続けていく予定である。

事業報告の附属明細書について

平成25年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので附属明細書は作成しない。